

農作物技術情報 第6号 畜産

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 飼料用とうもろこし 収穫適期（黄熟期）の判定を行い、収穫作業をすすめましょう。サイレージ調製は十分な踏圧と速やかな密封を行いましょう。
- ◆ 牧 草 最終刈取と秋施肥は、刈取危険帯を避けて行いましょう。更新や追播は、播種が遅れないように作業を進めましょう。
- ◆ 冬 作 物 ライムギなどの冬作物で粗飼料を確保しましょう。
- ◆ 大 家 畜 牛舎の暑熱対策を継続して実施し、健康観察や良質飼料給与を徹底して体力の回復に努めましょう。

1 飼料用とうもろこし

（1）生育状況

7月上中旬の気温は平年並みか低い傾向でしたが、下旬は平年を上回り、断続的な降雨があったことから、雄穂の抽出は例年より数日早い地域が多くなっています。早いところでは、8月下旬から収穫作業が始まっています。

（2）刈取適期の判定

収穫適期は、「黄熟期」です。これより早いと、水分が高いだけでなくデンプンの蓄積が不十分であり、排汁とともに栄養分が流出します。また、黄熟期より遅れると、消化率が低下するほか、水分が下がりすぎて踏圧、密封が不十分となり、カビの発生や不良発酵しやすくなります。

黄熟期の判定は「ミルクライン」による方法が簡単です（写真1）。とうもろこしの雌穂（実）の中程を折って先端側の子実を見ると、黄色い部分と乳白色の部分に分かれています。この境目を「ミルクライン」と言い、熟度が進むにつれて子実の外側から中心に向かって、黄色い部分が増えていきま



写真1 黄熟中期のミルクライン

す。収穫適期である黄熟中期は、ミルクラインが子実の外側から40～50%に達した頃です。なお、破碎処理を行う場合、収穫期を黄熟後期～完熟期まで拡大することが可能です。

これまでは、絹糸抽出から40～50日程度で黄熟期に到達するとされていましたが、近年は気温が高い期間が長くなっていることから、子実の登熟はこれよりも早まると考えられます。収穫機械やサイロの点検、資材準備を早めに行い、収穫に備えます。

（3）サイレージ調製

ア 細断

破碎処理を行わない場合は切断長10mm程度とします。破碎処理を行う場合は、切断長19mm、ローラー幅5mmに調整します。黄熟後期以降は、消化率を高めるためローラー幅を2～3mmに調整

します。目的のサイズで細断できるよう、また切断面が鋭利となるよう、ハーベスタの刃の調整と研磨を行います。

イ 添加剤の活用

乾燥による水分不足や霜に当たった場合、または収穫遅延や病害等で枯れ上がりが進んだ場合は、添加剤の使用を検討します。

乳酸発酵の促進には、乳酸菌製剤、酵素剤、糖蜜等を、不良発酵の抑制には、ギ酸等を使用して、良質発酵に努めます。

ウ 詰め込み・踏圧

サイレージ調製は、踏圧密度を高め、空気を遮断することが基本です。踏圧をしっかり行うことにより、発酵品質をある程度安定させることができます。踏圧作業の担当者は、時には運搬ダンプを待たせてでもしっかり踏圧を行うことが大切です。

土砂の混入を避けるため、運搬トラックはサイロの手前で原料を下ろします。フロントローダ等を用いて、サイロ全体に薄く（厚さ 10～20cm）広げ、速やかに踏圧を行います（図 1、写真 2）。

原料はサイロの壁側をやや高く積み、壁に向かって踏圧します（図 2、写真 3）。

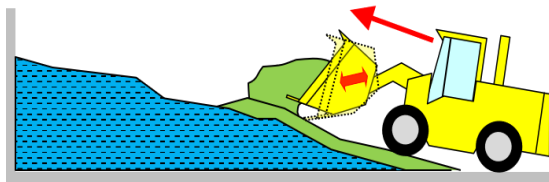


図 1 原料を 10～20cm 厚さに広げる



写真 2 原料を 10～20cm 厚さに広げる



図 2 原料は壁側を高く、中央部は凹型に広げる



写真 3 壁に向かって踏圧する

エ 密封

変敗の原因となる好気性微生物の増殖を抑えるため、収穫の当日に踏圧、密封までを行うのが理想です。やむを得ず 2 日にわたる時は、1 日目の作業終了時にギ酸やプロピオン酸を散布して仮被覆します。気密性の高いサイロでは 2 日目の作業を始める前に十分に換気して、ガスによる窒息、中毒事故を回避します。

踏圧作業後は、速やかにサイロビニールやスタックシートなどで原料を被覆し、シートが浮かないよう、廃タイヤ等で押さえます。

2 牧 草

（1）生育状況

2 番草の収穫は、断続的な降雨の影響もあり、7～8 月の長期にわたっています。生収量に対して乾物収量がやや少ない傾向にあります。

(2) 最終刈取と施肥

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日日長（日の出から日の入りまで13時間未満）になると越冬準備と来春の花芽分化を始めます。越冬のため、茎基に養分を蓄える時期は平均気温が5℃以下になる日から遡って30日前（積算気温270℃）の頃で、刈取危険帯といわれます。刈り取りと施肥は刈取危険帯前に行うのが合理的です。

県内各地のアメダスデータから、平均気温5℃になる頃（以下、Aとする）、刈取危険帯（以下、Bとする）はAから積算温度270℃遡る頃、施肥最適期（以下、Cとする）はAから遡って積算気温730℃になる頃めやすを示しました（図3）。

「9～10月の気温が高い」と思っている、Aの到来が遅くなっているわけではありません。「9～10月の気温が高い」と積算温度に必要な日数は短くなりますので、B、Cの期間は短縮される傾向となります。来春の収量確保に向けて、秋作業を計画的にすすめます。

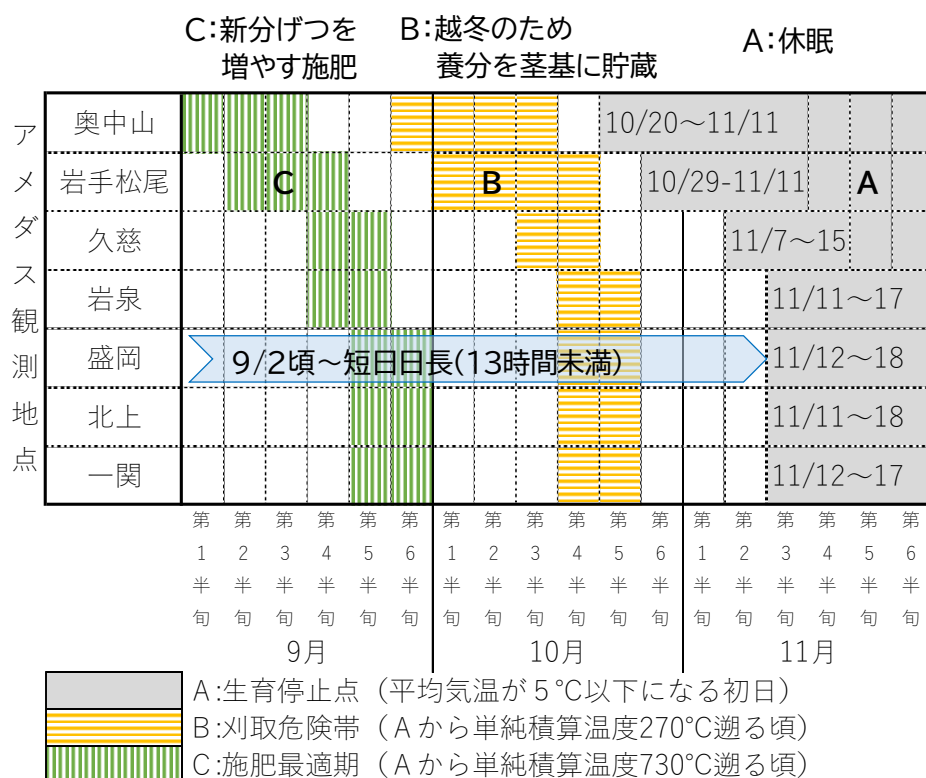


図3 地域別の刈取危険帯のめやす（2023-2025年）

(3) 追播、草地更新

夏枯れ等で生産性が低下した草地は、草地更新や追播を実施します（農作物技術情報第5号を参照してください）。積雪前に草丈10cm以上、分けつ3本以上まで生育していることが目標です。

牧草の定着を促すため、土壌pH6.5矯正量の石灰資材を施用し、牧草播種後はケンブリッジローラー等で鎮圧を行います。

3 冬作物（ライムギ等）の播種

飼料用とうもろこしや牧草が減収した場合は、ライムギ等の冬作物を播種して粗飼料を確保します。ライムギの10a当たりの現物収量は、約2tが目安です。

【播種時期】9月下旬～10月上旬 → 【収穫時期】5月上旬

【播種量】8kg/10a

【元肥】牛糞堆肥：2.5t、窒素8kg、リン酸10kg、カリ8kg/10a（土壌分析値によって調整）

【飼料成分】出穂期のライムギサイレージは、オーチャードグラス 1 番草の出穂～開花期に近い成分です（表 1）。

表 1 ライムギサイレージの飼料成分（%/乾物）

		乾物	CP	NDF	TDN	Ca	P	Mg	K
ライムギサイレージ	出穂期	29.7	13.5	66.8	56.0	0.67	0.42	0.19	4.46
オーチャードグラス 1 番草サイレージ	出穂期	26.8	13.8	62.3	64.5	0.39	0.26	0.14	1.85
	開花期	23.9	11.7	65.7	56.4				

日本標準飼料成分表 2009 年

4 大家畜

（1）牛舎内の環境

残暑が続くので、牛舎環境面の暑熱対策を継続します（農作物技術情報第 2～5 号、および高温対策特別号を参照してください）。

（2）飼養管理

ア 飲水量の確保と、水槽の掃除をこまめに行い、清潔な水をいつでも飲める状態に保ちます。

イ 良質粗飼料（消化の良い牧草やトウモロコシサイレージ）の給与を継続します。

ウ 夜間など、気温の低い時間帯の給与量を増やします。

暑熱により長期間採食量が少なかった牛は、ルーメン内の発酵酸の吸収能力が低下している可能性があるため、採食量増加に伴うアシドーシスに注意します。軟便や糞中の未消化物・粘膜が見える場合は、粗飼料の給与割合を多めにして様子を見ます。糞便の状態が落ち着いてきたら、徐々に配合飼料の給与割合を増やし、栄養を充足させます。

エ 起立時間が増加した、あるいは飼料の選び食いや固め食いが多かった牛では、蹄真皮の圧迫や炎症による蹄病が発生しやすくなります。起立した姿勢、歩行時の状態をよく観察し、問題ある牛は早めに獣医師や削蹄師に処置を依頼します。

オ 分娩牛は、分娩と暑熱両方のストレスを受けているので、いつもより注意深く観察し、異常がある場合はすぐに対処します。泌乳と発情回帰のため、良質粗飼料の優先給与、エネルギーの充足、ビタミン剤等の増給などの栄養管理を徹底します。また、分娩後 30～40 日頃に獣医師の診断を受け、子宮、卵巣の回復を確認します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。